

令和5年度
令和5年度

租税教育実践発表会
租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会会長
(石巻市教育委員会教育長)

3 実践者紹介 (発表者)

石巻市立貞山小学校	教諭	佐藤	仁美
東松島市立鳴瀬桜華小学校	教諭	井上	いづみ
石巻市立桃生中学校	教諭	和泉	悠真

(資料提出者)

石巻市立鹿妻小学校	教諭	佐々木	留美子
石巻市立寄磯小学校	教諭	菊地	亜由美
石巻市立山下中学校	教諭	遠藤	雅也

4 実 践 発 表

5 質 疑

6 閉 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石巻税務署長)

7 閉 会

実践発表会資料

石巻市立貞山小学校

教諭 佐藤 仁美 1

東松島市立鳴瀬桜華小学校

教諭 井上 いづみ 10

石巻市立桃生中学校

教諭 和泉 悠真 16

石巻市立鹿妻小学校

教諭 佐々木 留美子 22

石巻市立寄磯小学校

教諭 菊地 亜由美 26

石巻市立山下中学校

教諭 遠藤 雅也 30

租税教育の実践



石巻市立貞山小学校
教諭 佐藤 仁美

本日の流れ

1. 小学校社会科の指導課程
2. 租税教育 本学級の取り組み
3. 租税教室で学んだこと

石巻市立貞山小学校 6年1組【計26名】

- ◎ 自分の考えをはっきりと伝えられる児童
- ◎ 元気がよく、学習に真剣に取り組む児童



活気にあふれ魅力ある学級

1. 小学校社会科の指導課程

6年生社会科年間指導計画

年間時数（105時間）

- 政治 = 19時間
- 日本の歴史 = 72時間
- 国際 = 14時間

* 政治学習19時間のうち、税金を取り上げた内容は1時間。

国会、公共施設、選挙などに関連付けながら、幅広く学ぶ必要がある。



小学校社会科（政治・国際編）

日本国憲法三つの原則

- ① 基本的人権の尊重
- ② 国民主権
- ③ 平和主義



国民の三大義務

- ① 勤労の義務
- ② 納税の義務
- ③ 教育を受けさせる義務

国民の義務＝納税

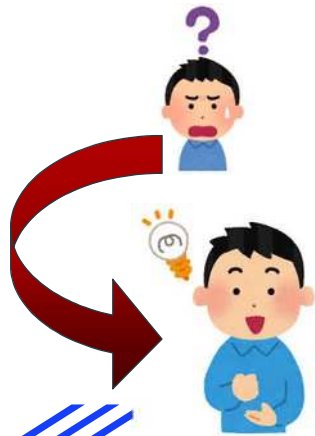
税金とは・・・



子供たちを取り巻く環境



児童の「**分かった!**」を引き出すために



1. 興味・関心を高める
2. 身近なこととして考える
3. 自分で調べる、友達と深め合う

楽しい授業づくり

2. 租税教育 本学級の取組み

1.導入 (興味・関心を高める)

- ◎ 馴染みのある消費税からのアプローチ ◎

お菓子の原価 + 消費税(10%) = 代金

「確かに、子供も税金を支払っているな。」



社会の一員・自分も関わっているんだという**実感**



大人だけの問題じゃない!



2.展開 (身近なこととして考える)

その1

- ◎ 選挙からのアプローチ ◎

電子黒板で一人ずつ投票させ、有権者だという体験をしました。

模擬選挙

問題 消費税について、各党は以下のように主張しています。

『あなたなら

A党とB党のどちらに投票しますか』
公約をよく見て考え、投票してみましょう。



A党

お年寄りの人口が増えているので、医療に関する公共的なサービスを維持するために消費税を増税します。



B党

国民に負担のかかる増税は、するべきではありません。まずは、現在の税金の使われ方を見直すべきです。

模擬選挙の結果は……………

模擬投票結果

B党の勝利
しかし
A党への投票数も多かった。

B党 13人

国民に負担のかかる増税は、すべきではありません。まずは、現在の税金の使われ方を見直すべきです。

A党 10人

お年寄りの人口が増えているので、医療に関する公共的なサービスを維持するために消費税を増税します。

税金が正しく使われるのなら、増税もやむなしと考えた児童も多かったことに感激。

2.展開 (身近なこととして考える)

その2

◎ 生活クイズ ◎

右の図で、税金が使われている施設はどれでしょう。

↓

児童は、全問正解！

3. 租税教室で学んだこと

もし税金がなかったら

具体的な場面を想像し、理解が深まった。



税金は社会の会費！

納めなければならない大切なもの

3.まとめ (学習を振り返る)

租税教室の感想をまとめました。

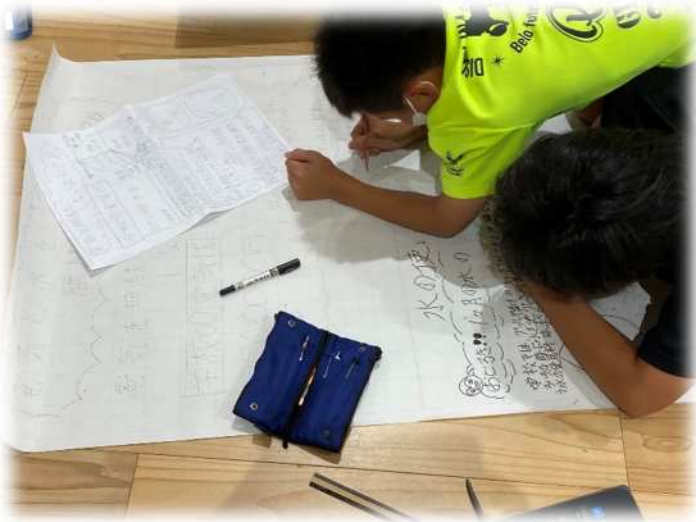
税金はとても大切なお金だと思いました。
消費税はいつもみんなはらっているけど大人
になるともっと色々な税金を支払いを
しなくてはならないと思うと税金を減
らしてほしいと思ったけど色々な所に
税金が使用されていることが分かったので
税金をはらうことはとても大切なこと
だと思いました。



ご清聴ありがとうございました。

令和5年度

租税教育実践発表会資料



東松島市立鳴瀬桜華小学校

教諭 井上 いづみ

1 はじめに

東松島市立鳴瀬桜華小学校は、平成 25 年 4 月小野小学校と浜市小学校が統合して開校した。校舎は小野小学校の校舎をそのまま使用したが、2021 年 3 月末に新校舎に移転した。学区内の耕地では農業が行われている。稲作が中心であるが、上下堤地区ではそばの栽培も行われている。震災後に始められたビニールハウスでのイチゴをはじめ、様々な農作物の栽培も行われている。東日本大震災で被害を受けた浜市地区でも漁業やノリ、カキの養殖業も行われている。

鳴瀬桜華小学校では、教育目標を「絆を大切に、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子供」とし、『夢がふくらむ楽しい学校』を合言葉に、地域とのつながりを大切にしながら教育活動を進めている。



本校はコミュニティースクール

として、地域の方々に“桜華小応援団”として、サツマイモ・枝豆・米・そばなどの栽培、登下校見守り、読み聞かせ、歴史探訪、花壇植栽、畑の整備など、様々な活動に協力していただき、学校づくりを進めている。

児童は、広々とした新校舎で伸び伸びと学校生活を送っている。校舎を取り巻くベランダや、3階まで突き抜けた中央階段、各階にある広いホールなど、他校ではなかなか見られない造りを自慢に思っている児童も多い。

2 児童の実態

本学級は、男子 15 名、女子 24 名、計 39 名で構成されている。昨年度まで 2 クラスだったが、本年度 1 クラスになったこともあり、4 月当初は戸惑いがある場面も見られたが、男女の仲も良く、様々な活動に意欲的に取り組む様子が見られる。

今回、租税教育を行うにあたり、児童がどの程度税について理解しているのかを把握するためにアンケート調査をした。結果は以下の通りである。

1 税金にはどんな種類があるでしょうか。	・消費税（39名） ・所得税（11名） ・住民税（5名） ・固定資産税（1名） ・自動車税（1名）・酒税（1名）・たばこ税（1名）
2 税金は何に使われているでしょうか。	・公共施設の建設費（6名）・学校（7名）・病院（3名） ・教科書（5名）・公園（4名）・公務員（1名）

税については、消費税などの身近な税は理解していたものの、使い道などについてはあまり理解していない児童が多く見られた。

税があることは理解しているものの、税に関する基礎的・基本的な知識や興味関心が乏しいと考えられるので、租税教育を通して基礎的・基本的な知識の定着を図り、税に関する興味関心を高められるようにしたい。さらに、身近なところで多くの税が使われていることを理解し、その大切さを実感させるような指導をしていきたい。

3 指導に当たって

指導に当たり、以下のような手立てを講じていく。

(1) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

石巻地区の税務関係者の方に講師となっただき、租税教室を実施する。そこで、税金について学び、種類や使い道などについて具体的に教えていただく。

(2) 税に対する興味関心の向上

児童の自慢の校舎が税金で建設されたことを取り上げ、建設費用だけでなく、電気代や水道代など、普段何気なく使用しているものが税金によって維持されていることを知り、身近なところで税が使われていることを実感できるようにする。

(3) 身近な税の活用から課題を見つけ、改善のための手立てを考え実践する

実際の校舎の建設費用と、月の電気料金、水道料金を知らせる。自分たちの学校生活を支えるために多くの税が使われていることを知り、少しでも無駄をなくそうという気持ちを育てたい。さらに、自分たちが得た知識を下級生にも知らせるために、税金を無駄遣いしないために自分たちができることを形にして残すようにする。

4 指導計画

時		内 容
1	○選挙のしくみと税金の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙のしくみや税金の働きについて知る。 ・公共サービスや公共施設にかかる費用の多くは税金によって賄われていることを知る。 <p>(社会科)</p>
2	○自分たちの暮らしと税金の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・もしも税金がなかったら？ ・自分たちの暮らしと税金 ・税の集め方・使われ方 <p>(石巻法人会の方による租税教室)</p>
3	○身近な税について	<ul style="list-style-type: none"> ・桜華小の建設にどれぐらいの税金が使われたのかを知る。 ・建設費だけではなく、普段の学校生活でも税金が使われていることを知る。 ・税金を無駄にしないためにも自分たちができることを考え、それがSDGsにも関係することを知る。 <p>(総合的な学習の時間)</p>
4	○税の無駄をなくすために自分たちができること	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが分かったことややるべきことをポスターや新聞などにして下級生にも伝え、税を無駄遣いしないようすることを呼び掛ける。 <p>(総合的な学習の時間)</p>

5 実践

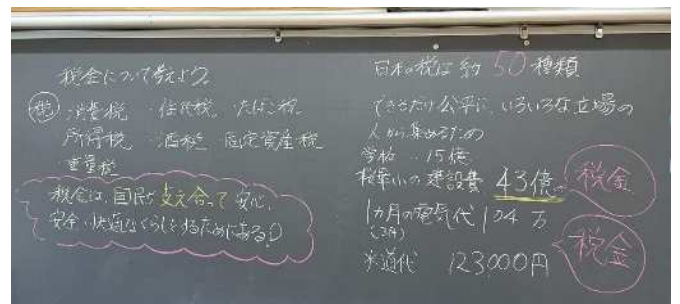
(1) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

租税教室で、講師の方から税の種類や使い道、そして児童にとって身近な消費税がどのように使われているかなど、スライドを活用して分かりやすく教えていただいた。さらに、税金がなくなったらどのような世の中になるのかを動画で紹介していただいたことで、税金はなくてはならない大切なものだの実感できたようである。租税教室後の児童の感想にも、「税金がないと、自分たちの暮らしは大変なことになる。」「消費税は必要ないと思っていたけど、今日話を聞いて必要なものということが分かった。」といったことが多く書かれており、税の必要性を感じたようだ。



(2) 税に対する興味関心の向上

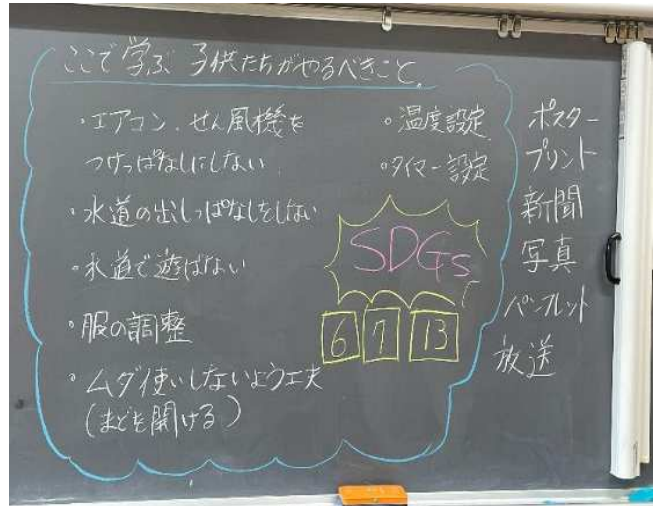
子供たち自慢の桜華小を建設するのにおよそ43億円の費用がかかったことを知らせた。租税教室で、一般的に学校の建築にかかる費用は15億円ほどだと聞いていたので、この金額には大変驚いたようであった。さらに、本校は1階から3階まで吹き抜けになっている階段があったり、各階にホールがあったりと非常に開放的な空間になっている。これらのスペースにもエアコンが設置されていることもあり、暖房を多く使用する冬場には、月に100万円を超える電気がかかっていること、その額が市内の他校と比較して2倍ほどになっていることなどを知らせると大変驚いていた。この他、水道料金も知らせると、建設だけではなく、学校生活を送る上でもかなりの額の税金が自分たちのために使われていることに気付いたようで、税に対する関心も一気に高まったことを感じた。



ここで、大切な税金を無駄にしないために自分たちができることを考えさせた。電気や水道に多くの税金が使われていることを知った子供たちは、電気をこまめに消すことや、エアコンの設定温度を上げることで、水道を出しっぱなしにしないことなど、自分たちができることを次々と提案した。さらには、東松島市から配布されているSDGsの冊子を使い、それらがSDGsにもつながることを確認した。

(3) 身近な税の活用から課題を見つけ、改善のための手立てを考え実践する

6年生はあと数カ月で卒業してしまう。子供たちは、「自分たちが学んだこと、税金の無駄遣いを防ぐために自分たちがやるべきことを下級生に伝え、取組を継続してほしい。」と、何かの形にして残していくことを考えた。子供たちから出された提案は、「ポスター」、「壁新聞」、「パンフレット」、「おたより」である。その他、放送委員の子供たちを中心に、校内放送で呼び掛けることも提案された。子供たちはそれぞれのグループに分かれて作成を開始した。



六年生からのお知らせ。
 六年生は社会科で税金の勉強をしました。
 税金とは、日本に住む人が協力して安心・安全な暮らしにするために払わなければ、いけないお金のことです。
 例えば所得税、住民税、重量税、たばこ税、酒税などです。
 皆さんが買ったことがある税金は、消費税といってモノを買ったときに払う税金ですよね。
 この立派な桜華小学校も実は税金で、できています。
 みんなが毎日使っている学校の電気や、水道などのお金も実は!!税金から出されています!
 しかも、この物産立派な桜華小の電気代や水道代はほかの学校よりもかなり高いそうです。これからもずっと素敵な桜華小を持続するためにも電気や水道を使いすぎないように心掛けていきましょう。
 そのために私たち六年生は壁新聞やポスター、パンフレット、写真を様々な取り組みをしています。色々などころに壁新聞やポスターなどがあるので見てみてくださいね。
 これで六年生からのお知らせを終わります。

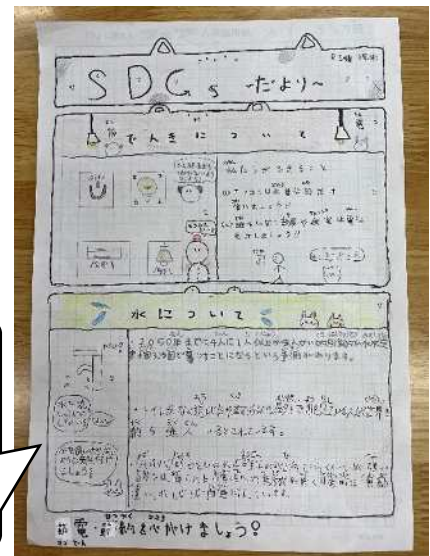
児童が作った呼び掛けの放送原稿

出来上がったポスターは各教室のコンセント近くに掲示してもらうよう各クラスに依頼した。その他、玄関ホールに壁新聞を掲示したり、パンフレットを配布したりと、思い思いの方法で全校児童に呼び掛けた。

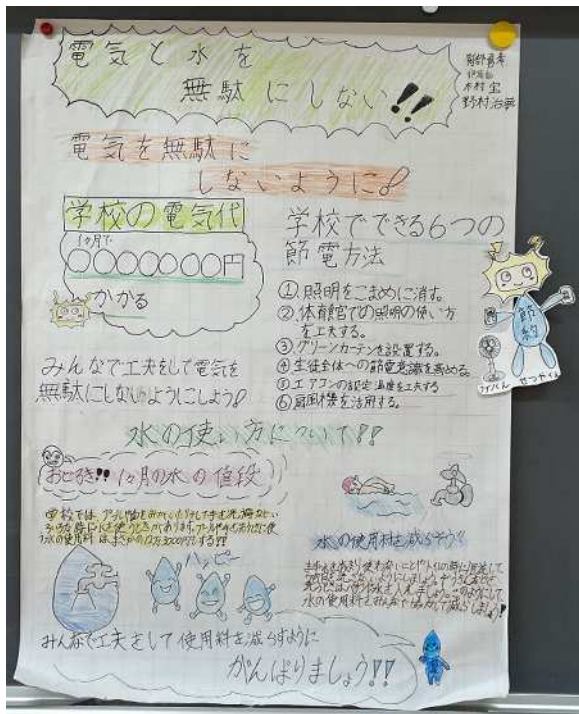
このような取組が、さらに税への関心を高め、税を“自分事”として捉えるきっかけになったと感じる。



パンフレット



おたより



壁新聞



気を付けてほしいところの写真を撮ってポスターに

7 成果と課題

- 租税教室の実施は、税についての基礎知識を得るために有効であった。
- 自分の通っている学校と税との関わりを学習教材にしたことで、興味関心が高まり、税金の大切さを自分事として考えることができた。
- 大切な税金を無駄にしないために自分たちができることを「考えるだけでなく、行動に移そう。」と投げ掛けたことで、自分たちが気を付けることに加え、ポスター等を作成して全校児童に伝え、継続を呼び掛けることができた。
- 租税教育の学習は、社会科の内容だけでは時数も少なく理解が難しい。租税教育も盛り込んだ指導計画を作成し、位置づけていく必要がある。

令和5年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立桃生中学校
教諭 和泉 悠真

1. はじめに

本単元は、中学校学習指導要領社会編の「B 私たちと経済」のうち、(2)「国民の生活と福祉の役割」に該当するものである。この中項目では、「国民の生活と福祉の向上を図るにあたり、市場の働きに委ねることが難しい諸問題などに関する理解をもとに考察する活動を通して、国民生活と政府の役割について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を育成すること」を主なねらいとしている。

本単元で学習する租税の役割や財政、社会保障の仕組みは、租税教育の要となる分野である。現在、日本は少子高齢化社会を迎えており、社会保障制度に多大な影響を与えている。年金などの支払額が高齢化で増える一方、保険料を負担する現役世代の人口は少子化で減少するため、現役世代一人あたりの保険料は増加していくことが見込まれている。このように、少子高齢化の影響で社会保障制度が将来にわたって持続できるかが大きな課題であり、支払いの増加に合わせて保険料や税の負担を減らすのか、負担を一定に保って支払いを減らすのかという選択をせまられている。

このような喫緊の課題に対して、財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢化社会などの現代社会の特色を財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現することにより、納税者として租税の使い道や配分の在り方を選択・判断する責任があることへの理解と関心を深めることができる重要な単元である。

2. 生徒の実態 (3 学年生徒 男子 20 名 女子 38 名 計 58 名)

本単元の学習内容に関するアンケートを行った結果、次の回答が得られた。(9月8日実施、回答者49名)

質問内容	回答	
① 税金と聞いて、何税を思い浮かべますか。	消費税…21人、関税…7人、所得税…6人、脱税…4人、増税…3人、納税…2人、その他(酒税、相続税、ふるさと納税など)…6人	
② 税金はどのようなことに使われていますか。知っていることを教えてください。	教科書など学校にあるもの、公共施設を建てるため、政治家や公務員の給料、年金、警察、消防、救急車、道路の整備、刑務所の運営、天皇陛下の生活費、防衛費、介護施設、子供の病院代、全員が必要としていること、国のため、社会保障や医療費、ごみ収集	
③ 日本の税金について、自分の考えに最も近いものを選んでください。	選択肢	理由
	○集める金額を減らすべき (36人)	自分に使われている実感がない、負担になって暮らしづらい、若者の負担が大きい、経済が回らなくなる、景気が悪化しそうだから、ひとり世帯や単身世帯の人は生活が苦しくなる、前の日本は低くても成り立っていたから、国民にとって意味のないことに使われている気がする、あまり多く集めないほうが考えて使うと思う、など
	○今のままでよい (9人)	変に変えたら面倒だから、あげても下げても国民は愚痴を言うから、使い道をもっと考えればよい、今より減らすのは難しいから、高いのは嫌だが少子高齢化なので仕方がない、など
	○日本には必要ない (3人)	物価が高くて大変だから、など
	○いまよりも多く集めるべき (1人)	ヨーロッパの国のように多く集めて国が豊かなところもあるから。

アンケートから、自分たちの生活に身近な消費税や、地理・歴史分野の授業で学習した関税などを税金として認識している生徒が多くみられた。また、税の使い道については、社会資本の整備や公務員の給与など、多様な用途が挙げられたが、公債について言及している生徒はおらず、政治家が無駄遣いをしているなど、否定的な認識を持つ生徒も若干名みられた。

日本の税金についての質問では、集める税金を減らすべきと考えている生徒が全体の70%以上を占めており、経済循環の妨げとなっている、自分たちのために使われている実感がわからない、といった考えが目立った。

3. 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、現代社会の特色を財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現することにより、主権者として租税の使い道や配分の在り方を選択・判断する責任があることへの理解と関心を深めることを目標とする。

アンケートの結果から、税に対してネガティブなイメージを抱いている生徒が多いことが分かった。そこで、生徒にとって身近な社会資本や公共サービスによる便益や、納税が行われないとどのような問題が生じるかを考察することで、納税の重要性を実感することができるようにする。また、財源の確保と再配分の観点から、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化とその財源の確保の問題をどのように解決していけばよいかを、自分の将来と照らし合わせながら考えさせることで、税の負担者としての自覚と課題解決に向けた意欲的な態度を育成していきたい。

4. 指導計画

指導計画（全4時間）

主な学習内容	学習目標	評価基準
1 私たちの生活と財政（本時）	税金がどのように使われているのかを理解し、税金の役割を自分の言葉で表現する。	税金が自分たち生活に欠かせないものとなっていることを、自分の言葉でまとめている。 【思考・判断・表現】
2 財政の役割と課題	財政が抱える問題に対する解決策を考察し、表現する。	財政が抱える問題に対する解決策を考察し、表現している。 【思考・判断・表現】
3 社会保障の仕組み	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。	日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。 【知識・理解】
4 少子高齢化と財政	国民の生活と政府の役割について、少子高齢化による財政政策の課題解決に向けて、自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に関わろうとする。	国民生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 本時の指導（1／4時間）

(1) 題材名「私たちの生活と財政」

(2) 本時の目標

税金がどのように使われているのかを理解し、税金の役割を自分の言葉で表現することができる。

【思考・判断・表現】

(3) 指導過程

段階	学習活動 Q：発問／A：生徒の反応	形態	指導・支援上の留意点 ●評価 [観点] 【方法】
導入	1. 事前アンケートの結果を確認する。 2. どのような税金があるのかを確認する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をクイズ形式で共有することで、本時の学習への関心を高めさせる。 教師の給与明細の控除欄や、コンビニエンスストアで購入したもののレシートを掲示し、どのような税金がどの程度支払われているのかを読み取らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">税金はどのように使われているのか。</div>			
展開	3. 税金の使い道を考える。 Q「税金はどのようなことに使われているのか。」 A・学校の教科書 ・年金 ・道路の整備 4. 税金のない暮らしはどのようなようになるのかを考え、班でホワイトボードにまとめ、発表する。	個人↓全体 個人↓班↓全体	<ul style="list-style-type: none"> jamboard を用いて自由に意見を出させる。 生徒に1日の生活を振り返らせることで、自分たちの身近なところで税金が使われていることに気づかせる。 教科書の資料をヒントにして考えさせる。 絵画資料「税金のない世界」を掲示し、考える際のヒントにする。 税金によって運営されている施設・サービスを班で思い出せるように声掛けを行いながらまとめさせる。 税がないことで、町のどのような機能が成り立たないのかに注目させる。
まとめ	5. 「税はなぜ必要なのか」を、自己まとめに記入する。	個人	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業で学んだこと、疑問に思ったことについて記入するよう声掛けを行う。 まとめられない生徒に対しては、机間指導の際にキーワードを示す。 ●税金の役割について、自分の言葉でまとめ、表現しているか [思考・判断・表現] 【ノート】

(4) 評価

観点	評価基準		
	十分満足と判断される状況 (A)	満足できると判断される状況 (B)	努力を要する生徒 (C) への指導の手立て
思考・判断・表現	税金が自分たちの生活に欠かせないものとなっていることを、自分の経験と照らし合わせながら、自分の言葉でまとめている。	税金が自分たちの生活に欠かせないものとなっていることを、自分の言葉でまとめている。	税金のない生活や、税金によって成り立っている施設・サービスを一緒に確認し、イメージしやすくする。

6. 生徒の感想

- ・人々が安心安全に暮らすため。税金がないと警察や消防が機能しなくなる。また、インフラの整備もされないものであれた状態になってしまう。こうならないためにも税金は必要。
- ・街灯や電気、水など、住むための整備は税金でまかなわれている。税は高く、ニュースでも悪い情報しか流れないので、イメージが悪かったが、生活するために必要なもので大切であることが分かった。
- ・税は道路の整備など様々なところに使われており大切だが、それでも集めすぎだと思う。
- ・税金がないと国の治安が守られないことが分かった。しかし、同時になぜ現代では増税をするのか疑問に思った。
- ・税金がないと、町の整備がされず、事件・事故が多発する。生活に絶対に必要なものだが、その使い道はもう少し考えるべきだと思う。
- ・私たちの日常の当たり前になっている様々なもの（救急車や町の整備）は、調べてみると税金が使われており、税金によって成り立っていることが分かった。税金の役割は、国民の生活を支えていることだと考えた。
- ・税金がなければ、自分たちが当たり前だと思っている世界が壊れてしまう。あればあるで面倒だが、道路や川、治安の良さは、税金がなくては成り立たない。住みやすい国にするには、少しの我慢も必要だと分かった。
- ・税金は自分たちを守るためとか、生活を豊かにするためにあると思う。だから政治家とかの飲み会などには決して使わないでほしい。
- ・税金がないと自分も周りの人も困ることが多くなるということが分かった。税金は集めた後の利用先をみんな考えてすることで、全員が気持ちよく生活できるのではないかと思った。

7. 成果と課題

授業実践を終えての成果と課題は、以下のとおりである。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを基にしたクイズや、レシートなどの生徒にとって身近な実物資料を用いたことで、興味・関心を高めることができた。 ・絵画資料を用いることで、生徒が持つ税の用途の認識を広げることができた。 ・班でまとめた内容をほかの班に発表する活動を通して、自分たちの班では気づかなかった点を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでも授業後にも多く出た、「使い道をよく考えるべき」という意見を用いて、より深めることができたのではないか。 ・生徒の生活圏（石巻市や桃生地域）のトピックを取り入れることで、より意欲が高まっていたように感じた。 ・租税教室を活用することで、税に対するより深い知識を持ったうえで授業に臨むことができたのではないか。

8. 終わりに

今回の租税教育における授業実践を通して、生徒が税を身近に感じることができ、また税に対するネガティブなイメージを少しでも払拭することができたと考えられる。授業後に再度実施したアンケートでは、「税は日本には必要ない」と回答した生徒はおらず、「集める金額を減らすべき」と答えた生徒は減少した。授業後のまとめでは「なぜ増税が必要なのか」という疑問が生徒から生まれ、次時の内容につなげることができた。

一方で、税を生徒自身の将来と照らし合わせて、深く考えさせることができなかつたことが課題としてあげられる。「税は必要で、なくてはならないもの」という生徒たちの認識を、自らの生活や財政が抱える課題と結び付けて深く考えさせるためには、発問の精選やさらなる資料の充実が必要だと感じた。実際に、生徒たちの多くが生活している石巻市桃生町も過疎化・高齢化が進んでいるため、この問題を税の学習と関連付けて考察できる学習課題なども、今後設定していきたいと感じた。また、本単元を学習するにあたり、租税教室などを実施して税に対する知識を事前に身に着けることで、授業でより発展的な内容を扱うことができたのではないかと考えられるため、積極的に活用していきたいと思う。

今後の公民分野の授業では、人権や日本国憲法、民主政治についての学習を予定している。今回の税の学習で得た成果と課題を生かして、授業・単元の構成を行っていきたい。

令和5年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立鹿妻小学校

教諭 佐々木 留美子

1 はじめに

昭和61年4月8日に開校した鹿妻小学校は湊地区と渡波地区の中間に位置する。北部には自然環境に恵まれた牧山丘陵を背負い、東部には田園地帯が広がる。南・西部は石巻漁港に隣接する住宅地である。学校としての立地条件から見て、静かな恵まれた環境にあるといえる。

本校は、今年度「夢や希望をもち 心豊かでたくましい児童の育成」を学校教育目標として、目指す児童像を「進んで学習にチャレンジする子」(かしこい子)「明るく思いやりのある子」(やさしい子)「最後までやり切る子」(たくましい子)とし、児童並び保護者、地域社会の願いや実態・実情を的確に把握し、生涯学習の基盤をつくとともに、社会の変化に主体的に対応して生きていく力を育むために教育活動を進めている。

租税に関する学習は、小学校学習指導要領の第6学年の内容(1)ア(ア)日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること、国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、裁判員制度や租税の役割などについて扱うとなっている。

「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。その際、限られた財源をどのように配分するのかを決める責任は、国会や地方議員などの制度を通して、国民や住民にあることに触れるようにする。

2 児童の実態

本校の6学年の児童は、委員会の仕事、当番の仕事など自分の役割をしっかりと果たし、創意工夫をしながら取り組んでいる。最高学年として縦割り活動やクラブ活動などでリーダーシップを発揮している児童が多い。

社会の学習において、政治経済に関して基礎的基本的な知識をもっていたり、興味関心が高かったりする児童はあまりいない。ニュースや新聞などで社会のしくみや租税に関することに、その知識を持ち合わせている児童も少ない。

3 指導に当たって

指導に当たっては、前述を踏まえ、次の4つの手立てを講じていく。

- (1) 税に対する興味関心や意欲を高める導入を行う。
- (2) 税に関する基礎的・基本的知識の理解を深めるための教材の工夫をする。
- (3) 自分の生活と税について、結び付けて考えることができるような学習過程の工夫をする。
- (4) 将来、税についてよく考え、税金の使い方を決める代表者を自分で選択できる指導をする。

4 指導計画

	単元名 主な学習活動	税に関する学習内容	手立て
1	わたしたちのくらしと日本国憲法 市の政治が基本的人権の尊重にもとづいておこなわれ	税金を納める義務	手立て(1)

	ていること、日本国憲法には国民の権利と義務が定められていることを理解する。		
2	国の政治のしくみと選挙 国会の働きを調べることを通して、国会は国の政治の方向を話し合っていることを理解する。	予算の議決 (税金の使われ方)	手立て(2)
3	選挙のしくみを調べることを通して 国会での話合いは選挙で選ばれた国会議員により進められていることや、国会議員によって国民が納めた税金の使われ方が決められていることを理解する。	税金の集められ方と 使われ方	手立て(3) 手立て(4)
4	歴史分野 大化の改新と天皇の力の広がり他、歴史上の税制についてその都度、変遷を調べる。	租・調・庸等	手立て(1) 手立て(2)

5 実践

(1) 税に対する興味関心を高めるための工夫

6年生の学習・政治国際編の導入として宮城県租税教育推進協議会・仙台国税局で企画・制作したパンフレットに掲載されているクイズを出した。学習に入る前で予備知識なしで行った。クイズは以下の5問である。

- 第1問 税金を払うのは、18歳になってからである。 答え【×】
 第2問 みんなが学校で使っている教科書は、税金が使われている。 答え【○】
 第3問 国の税金は道路や橋などの整備のために一番多く使われている。 答え【×】
 第4問 警察官や消防士の活動に税金が使われている。 答え【○】
 第5問 税金をどのように使うかを決めるのは、内閣総理大臣である。 答え【×】

どの問題も、誤答が多く基本的な知識がない児童が多いことが分かった。第1問目は児童全員が買い物で消費税を払っていることに気づくことができた。第2問の答え合わせをした後、自分たちの使っている教科書の裏表紙を見て「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と印字されていることを確認し、税金を身近に感じさせることができた。このパンフレットはイラストが多く、わかりやすく解説されていた。

(2) 税に関する基礎的・基本的知識の理解を深めるための工夫

税金の種類、税金の流れなどを動画、教科書のイラストなどを使い、視覚的に分かりやすく、かみ砕いて説明した。歴史の学習をする中で、その都度、現在との違いに気付かせながら興味をもたせ、知識の定着を図る。これも前述の宮城県租税教育推進協議会・仙台国税局のパンフレット「税金ってなんだろう」や東京書籍の電子教科書コンテンツ、NHKforSchoolの番組「社会にドキリ『権利と義務』」、ショート動画「税金の種類と使われ方」「税金のはたらき」などを視聴させた。具体的なイメ

ージをもたせることで、児童は基本的な知識を得ることができた。

また、歴史的分野の学習では、農産物（租）や特産物（調）、労働（庸）などを税として国に納める仕組みができたことを学び、8世紀頃から税の仕組みがあったということに気付かせることができた。現代と違って物で納めること、昔から税があったことに驚いた児童が多かった。

（3）税と自分の生活との関わりに気付かせる工夫

税金の使い道については、国だけでなく、宮城県、石巻市について触れることで、税金が自分たちの生活に大きく関わっていることに気付かせることができた。また、収入、予算などの円グラフを読み取り、国会や市議会の動画を視聴させ、どのように予算が決められるのかを大まかに知ることができた。

（4）将来、税についてよく考え、税金の使い方を決めるための代表者を自分で選択できる指導の工夫

教科書の電子版のコンテンツに、模擬投票を行うものがある。二人の立候補者が、税金について自分の考えを伝え、児童はどちらの立候補者に投票するか一人一人考える活動である。選挙に行き、自分たちの納めている税金の使い道について考え、候補者を選ぶことが大切だということに気付かせることができた。



6 成果○と課題△

○はじめは「税金のことは分からない」という思いの児童が多かったが、学習を進めていくうちに自分の生活に必要な不可欠という意識をもつ児童が多くなった。道路や橋、ごみの収集なども税金が使われ、自治体によって違いがあることなども動画教材などで知り驚いていた。知識が乏しい児童が多いので、今後も機会があれば、教材として取り入れ、考えさせていきたい。

△予算案や税の種類、仕組みなど、児童が初めて聞く言葉が多く、思ったほど理解していない児童が多かった。児童が分かっていると思い込まずに、よりかみ砕いて説明する必要がある。

令和5年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立寄磯小学校

教諭 菊地 亜由美

1 はじめに

平成元年に消費税が導入されてから段階的に税率は引き上げられ、平成31年には消費税率は10%となった。児童は、商品を購入した際に消費税を支払うことが当たり前だと思っているが、その税率が適切かどうかを考える機会は少ないであろう。選挙権が18歳に引き下げられ、様々な学習の中で、政治に興味を持たせ、社会参画する意識付けをすることが求められている。今回の学習を通して、社会的事象について自分の考えを持たせるきっかけとしたい。

2 児童の実態

本校は、牡鹿半島の東側に位置する全校児童2名の小さな学校である。今年度は、6年児童1名、3年児童1名複式学級を編成している。本校で行う税務署による租税教室は5、6年生を対象とし、隔年で行っている。今年度の6年児童は、昨年度租税教室を実施し、税の仕組みや税の役割についてはある程度理解している。今年度、6年生の公民分野で国の政治の仕組みや税の役割について学習した際には、「税は国民の生活にとって不可欠なものである」という考えを持っていた。6年児童は、私たちの生活と政治がどのように関連しているのかということについて興味関心が高く、家庭学習で疑問に思ったことなどを自発的に調べる姿も見られた。

3 指導に当たって

児童の実態を踏まえ、以下の点に留意して指導に当たっていく。



- 税に関する知識を深めさせ、様々な視点から現行の税制度について考えられるようにする。
- 授業の始めと終わりに税に関するイメージを挙げ、税に対する自己の考え方の変化に気付かせる。
- 世界と日本の税制度を比較させ、より広い視野で税について考えるきっかけを作り、児童の興味関心を高める。

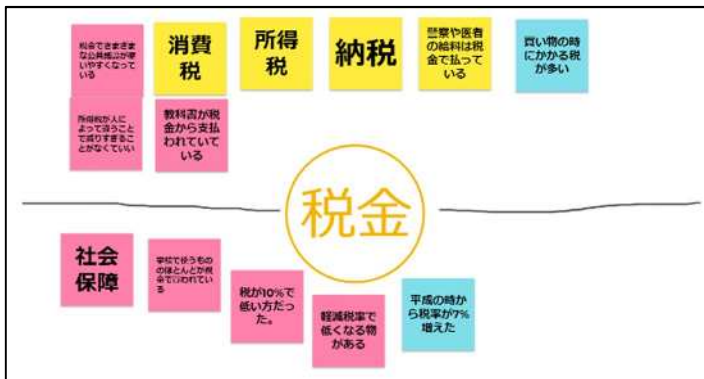
4 指導の実際



(1) 指導計画

	学習活動
つかむ	6年社会科 「私たちの生活と政治」 ・税金の使い道が国会で決められていることを知る。 ・選挙により、国民の意見が政治に反映されることを知る。 ・東日本大震災からの復興・復旧に向けた国の取り組みについて知る。
知る	小学校社会科学習資料 「わたしたちの暮らしと税金」 ・わたしたちの周りではたくさんの税金が使われていることを知る。 ・子供一人あたりの教育にどれくらいの税金が使われているかを知る。 ・税金の種類や税金の使い道について知る。
深める	学研プラス「いつか選挙に行く君に知っておいてほしいこと I 生活と税金・法律について」 ・世界の税制度や社会保障制度について知る。 ・日本の税率は10%でよいかについて考える。

(2) 実践内容

つかむ 小学校社会科学習資料 「わたしたちのくらしと税金」	
<p>主な学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 「税」に関するイメージを挙げる。 ・よいイメージはピンク色付箋，悪いイメージは青色付箋，その他黄色付箋で分けて記入する。 「わたしたちのくらしと税金」を活用し，学習を進める。 授業を通して新たに知ったことを加筆する。 ・上段が授業の導入で記入した税に対するイメージ，下段が授業を通して分かったことを加筆したもの。 	<p>学習の様子</p>  <p>宮城県租税教育推進協議会，仙台国税局企画・制作 小学校社会科学習資料 「わたしたちのくらしと税金」</p> 



<p>深める 学研プラス「いつか選挙に行く君に知っておいてほしいこと」 1 生活と税金・法律について</p>	
<p>主な学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 世界の税率や，医療費，教育費に使われている額を知る。 世界と日本の税制度を比較し，考えたことを発表する。 日本の税率10%は高いか，低いかにについて考える。 	<p>学習の様子</p>  <p>学研プラス 「いつか選挙に行く君に知っておいてほしいこと」 監修 宇野重規</p> 

税率10%は高い？低い？

高い
理由は、10%で社会補償や医療負担、学校に必要なものを揃えられていると思うからです。他の国と比べると10%は低い方だと私は思いますが、最近物価が上がっていて、税率が上がるとさらに支払うお金が増えて困るので、できればこれ以上税率を上げないで欲しいと思いました。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・教科書だけでは、税の仕組みや税金の使われ方を詳しく学ぶことができなかったため、様々な資料を活用しながら学習を進めたことで、税制度の実際を知ることができ、児童の興味関心が一層高まった。
- ・図書室の本を活用して学習を進めたことで、同じシリーズの本にも興味を持ち、自発的に読んだり、更に自分で調べたりするようになった。
- ・「税率は低い方がよい」、「税率が高いと商品の値段以外にもたくさん支払わなければならない」という考えを児童が持っていたが、他国と日本の税制度を比較したことで税率が高いことのよさについても知ることができ、新たな視点から税について考える機会となった。

(2) 課題

- ・本校では、隔年で租税教室を行っているが、教科書で国の政治の仕組みや税について学んだあの方が租税教室の効果が高くなると感じた。
- ・児童1名での授業であったため、他者と意見を交流することができなかった。「税率10%は高いか？低いか？」という問いに対して、学習したことをもとに自分の考えを持つことができていたので、牡鹿地区の6年児童と考えを交流するなど、話し合いによってより考えを深める機会を設けられたら更に学習効果が高まると感じた。

令和5年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立山下中学校
教諭 遠藤 雅也

1 はじめに

なぜ、「税」が必要なのだろう？

国や都道府県、市町村では、私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な仕事（公共サービス等）をしています。このような「公共サービス」や「公共施設」を提供するためには、多くの費用が必要になります。その費用をみんなで出し合って負担しているのが「税金」です。

（国税庁ホームページ 税の学習コーナーより）

令和元年10月より消費税が10%に引き上げられた。日本は主要先進国の中でも驚くほどのスピードで少子高齢化が進んでおり、これに伴い社会保障費にかかる費用負担が年々増加していることも消費税増税の一因であると考えられる。更に人口減少の一途をたどっていることから、今後の税収については厳しいものになるといえる。私たちの生活を支えている「公共サービス」などは「税金」によって賄われていることを考えると、「税」について学ぶことが国民にとって重要であると考えられる。

また、昨今の日本においては国内の課題にとどまらず、地球温暖化やロシアのウクライナ侵攻による物価高などの世界的な課題が私たちの生活にも大きな影を落としている。今年度の予算案は約114兆円となっており、税収入も過去最大となることが予想されている。これからの税負担を担う生徒が税の使い方について学んでいくことで、税が国民の負担で成り立っていることや自身が納税者であり、国を支えていく納税者であることの意識付けにつなげていきたい。

2 税に関するアンケートの結果から

租税教育を実施するにあたり、税に関するアンケートを実施した。結果は下記のとおりである。

令和5年9月8日実施 回答数 3年生 62名

1 現在の消費税は何%であるか

- ・10%・・・57名
- ・10(8)%・・・1名
- ・8%・・・2名
- ・誤答・・・2名(14%, 12%)

2 今後消費税が上がるとしたら、あなたはどのように思いますか？

- ・賛成・・・0名
- ・反対・・・53名
- ・分からない・・・9名

3 消費税以外の税についてどんなものがあるか？（複数回答可）

- ・固定資産税
- ・自動車税
- ・所得税
- ・相続税
- ・住民税
- ・ガソリン税
- ・住民税
- ・たばこ税
- ・消費税
- ・関税
- ・納税

4 消費税など、税が何に使われているか興味がありますか？

- ・ある・・・35名
- ・ない・・・18名
- ・分からない・・・9名

「税」については、多くの生徒が消費税10%であることは知っており、中にはイートイン8%であることを書いた生徒もいた。今後消費税が上がることについては反対である生徒が約85%であり、その多くは「自分のお金が減ってしまう」と考えている生徒が多かった。また、分からないとした生徒については、「正しく使われるのであれば上がっても仕方がない」や「少子化対策につかうのであれば」といった税の使い方によっては消費税の増税も仕方がないと考えている生徒もいた。このことから、生徒は「税」が自分のお金から支払われていることは理解しているが、上がることで自分の生活にどのような影響を与えるかについて理解していない生徒が多いと考える。消費税以外の「税」の種類については、知っている生徒は複数の回答をしたが、分からない生徒も数名いた。また、どのように使われているかについて、興味がある」と答えた生徒は半数程度であり、興味のない生徒やどちらでもない生徒が半数近くあった。興味を持っている生徒は、「無駄遣いされたくない。」、「ど

のように使われているか知りたい」といった考えを書く生徒が見られた。一方で興味のない生徒は、「今は興味ない。」「知らないから」という意見があった。興味を持たない理由として、「税」がお金であり、自分たちで支払うことは理解しているが、負担することの大切さや「税」の使われ方によって私たちの生活が変わることを知らないことがあげられると考える。このため、「税」の使い方を考えることで興味を持ち、将来の納税者としての意識を高めることにつなげたい。

3 指導にあたって

税の必要性について学び、その使い方を考えさせることで、「税」を納めることが国民にとっていかに大切なものであるかを理解させるとともに、どのように「税」が使われているかについて関心をもたせたり、社会参加に対する意識を高めさせたりするなど、持続可能な社会の実現に向けた考えを深めさせたい。そこで、授業では以下の視点に着目して、授業を行う。

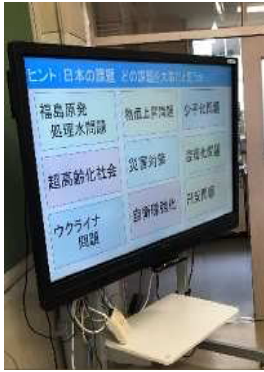
視点1
視点2





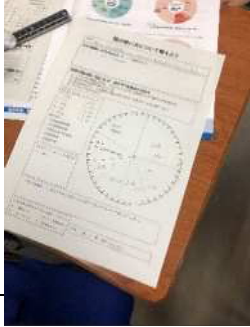
日本の課題について話し合い、多面的・多角的な考えを持たせる。
「税」の使い方について優先順位を考え、どのように分配していくかについて、円グラフを完成させることで、納税者としての社会参加の意識を高める。

4 授業について

題材名	税の使い方を考える
目標	「税」使い方を考える【思考・判断】
本時の提案	視点1 日本の課題について話し合い、多面的・多角的な考えを持たせる。 視点2 「税」の使い方について優先順位を考え、どのように分配していくかについて、円グラフを完成させることで、納税者としての社会参加の意識を高める。

5 学習過程

段階	・学習活動・ 本時の提案	○予想される生徒の反応 ●支援を必要とする生徒の反応	形態	指導上の留意点	
展開 40分	1 事前にとったアンケート結果を発表		一斉	<ul style="list-style-type: none"> 出てきた「税」についての簡単な説明を行い、本日のめあてを確認 簡単に説明し、考える時間の確保に留意する。 	
	2 学習課題の提示 「税」の使い方を考えよう				
	3 スライドを提示し、「税」がなぜ必要かについて説明する。				
	4 発問 :税がなかったらどのようなことが起きると考えるか ○警察や消防にお金を払わないと来てくれなくなるのかな ○学校に払うお金も増えるかも ●全く分からない				
	5 日本ではどのような税が集められているかについて説明を行う。				
	6 日本の税の使い道についての円グラフを見る。				一斉
	7 円グラフを完成させるために、日本の課題について話し合う。 ○物価が高い ○ウクライナの戦争				グループ

<p>展開 40分</p>	<p>●思いつかない</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>視点1 日本の課題について話し合い, 多面的・多角的な考えを持たせる。</p> </div> <p>8 円グラフを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の課題をもとに優先順位をつけて, どれぐらいの割合にするか考えて円グラフを完成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>視点2 「税」の使い方について優先順位を考え, どのように分配していくかについて, 円グラフを完成させることで, 納税者としての社会参加の意識を高める。</p> </div>  <p>●書けない。 ●優先順位を決められない。</p>   <p>9 何人かの生徒が発表をする。</p>	<p>◆スライドを見せ, 身近な事例から考えてみるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 項目の内容にも触れつつ, 円グラフを作ることを確認する。 例を挙げ, できるだけ考えの幅を広げさせる。 自由に動いて, 聞いたり, 話し合ったりしてよいこととする。 <p>個別 自由</p>  <p>◆優先順位の決まっている生徒については, どれぐらい大事かについて考えることができるようアドバイスを行う。</p> <p>◆全く書けない生徒については, 割合まで考えず, 優先順位の大きいものから円グラフの中に割り振っていくよう促す。</p> 
<p>終結 5分</p>	<p>10 税金はどのように使われるべきかについての考えを書く。</p>	<p>一斉</p>

6 生徒の感想

- 未来のことを考え, 税金が正しく使われるべきだと思う。
- 1つの問題だけに税金を使ってはいけないと思った。
- 自分たちの生活が良くなるために税金は使われるべきで, そのために税を支払わなければならないと思った。
- 税を支払うことが, 自分たちの生活につながっているんだなと思った。

- ・必要などころに、必要な分だけ、状況に合わせて臨機応変に使われるべき。
- ・発表してくれた人の話を聞いて、社会保障関係費には多くの税金を使うべきだと思った。
- ・国民が納得する税金の使われ方をしているか、気にしなくてはいけないと思った。
- ・税金を払っている国民のために、優先順位をつけて使われるべきだと思った。

7 成果と課題

○成果

- ・日本の課題や税金の使い方などについて、活発な話し合いを通して「税」について多くの生徒に興味を持たせることができた。
- ・生徒が日本の課題について真剣に考え、税の使い方について十分に考えさせることができた。
- ・税金がどのように使われれば、自分たちの生活が豊かになるか考えさせることができた。

●課題

- ・社会科公民分野ではこの単元の扱いが2学期後半のため、時期的に扱いが難しいと感じた。
- ・納税者としての意識を高めるということについては今回の授業だけでは不十分であったと思われる。今後の授業で、改めて生徒に意識付けさせたい。

税の使い方について考えよう

どのような使い方がよいか考えてみよう

めあて

現在の日本の課題をとらえ、
税をどのように使えばよいか
について考える。

税金はなぜ必要か

国や都道府県、市区町村では、私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な仕事（公共サービス等）をしています。このような「公共サービス」や「公共施設」を提供するためには、多くの費用が必要になります。その費用をみんなで出し合って負担しているのが「税金」です。

国税庁HPより抜粋

税金が使われているところは・・・



国税庁HP

石巻市では
・小中学校
・総合運動公園や町の公園
・ゴミ処理施設
・警察・消防
・市役所
・公民館
他には・・・？

もし税金がなかったら・・・

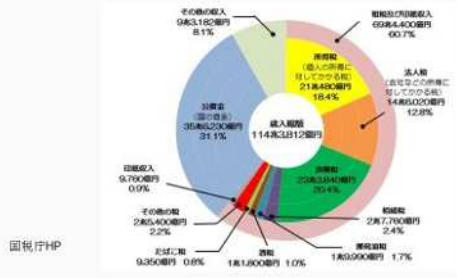
税金はみんなが支払うものです。この税金がもし、なかったらどのようなことが予想されるか、考えてみよう。

学校は・・・

警察・消防は・・・

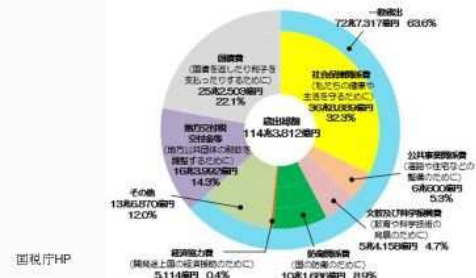
ごみ収集は・・・

日本ではどのような税を集めているか



国税庁HP

日本の税の使い道



国税庁HP

配布されたプリントに日本の課題について書き，円グラフを完成させましょう

考えるのは，社会保障費・防衛費・文教及び科学振興費・経済協力費・公共事業関係費

今の日本の課題について知っていることを挙げてみよう。

例えば：物価が高い 電気代が高い

税金のどの分野を使えば良いか

その他の分野の税金を増やす

では，どの分野の支出を減らすか・・・？



ヒント：日本の課題 どの課題を大事だと思うか

福島原発
処理水問題

物価上昇問題

少子化問題

超高齢化社会

災害対策

温暖化問題

ウクライナ
問題

自衛隊強化

円安問題

この他にも色々な課題がある・・・
自分にとってどの問題を解決することを優先させるかについて考える

手順

- 1：どの問題を解決することが大事か自分で決める
- 2：その問題がどの分野の税金の支出になるか考える
(分からなければ，聞きに行く)
- 3：円グラフを完成させる
- 4：根拠となる理由について書く

どんなに良い税の使い方を考えても，みんなが税を払わなければ，より良い日本になりません。
また，みんなから集めた税を正しく使うことも大切である